不可分義務ニ於テハ各債権者ハ債権ノ全部ノ履行ヲ請求スルノ権利ヲ有シ各債務者ハ義務ノ全部ヲ履行スルノ負擔ヲ有スヲ以テ不可分義務ハ或ル点ニ付キ連帶義務ニ比シ既判力較薄弱ナル所アリト雖トモ目的ニ関シテハ連帶義務ヨリ區域一層廣キモノナリ然リ而シテ此事項タル一方ニ於テハ單簡ナリト雖トモ他ノ一方ニ付テハ甚タ錯雜セルモノニシテ不可分義務ノ理論ノ困難ナルハ學者ノ普ネク認メタル所ナリ

不可分ノ場合ヲ類別スル二個ノ異ナル点ニ付キ観察ヲ下スコトヲ得ヘシ即チ不可分ノ原因ニ付キ又其効力ニ付キ観察ヲ下シ之ヲ類別スルコトヲ得而シテ各観察ノ点之ヲ二種ニ細別スルコトヲ得

第一義務不可分ノ原因ヲ観察スルニ只二個アルノミ即チ負担シタル物ノ性質及ヒ当事者ノ合意是レナリ蓋シ負担シタル物ノ性質上分割スルヲ得サルモノアリ又当事者ノ合意ヲ以テ債務ノ元来分割スルヲ得ヘキモ之ヲ分割スル可カラサルコトヲ約スルコトアリ

カラサルコトヲ約スルコトアリ

尚ホ法律上義務ノ不可分ナル場合詳カニ之ヲ言ヘハ法律ノ規定ヲ以テ義務不可分ナルコト
ヲ定メタル場合アリ質及ヒ抵當ノ如キ即チ是
レナリ又動産及ヒ不動産ニ係ル先取特権ノ如
キモ亦同一ノ理由ニ依リ不可分タルモノナリ
然レトモ法律ニ是等ノ擔保ヲ以テ不可分ナリ
ト定メタルハ當事者ノ意思ヲ推尋シ之ヲ解釋
シタルニ因ルノミ是ヲ以テ當事者ハ物ノ性質
ニ因スル不可分義務ヲシテ可分義務タラシ

ムルコト能ハスト雖トモ法律ニ定メタル不可分義務ヲシテ可分義務タラシムルコトヲ得故ニ曼荼ノ場合ニ於テハ不可分ノ原因タルモノニ非サルヤリ然レトモ亦本編第十九條ニ掲ケタル如ク特別法ヲ以テ不可分義務ヲ定ムル場合ナレトモセサルカ故ニ民法以外ニ於テハ法律モ亦不可分ノ原因タルモノヤリ第二不可分ノ効力ヲ観察スルトキハ又原因トシテ之ヲ二種ニ区別スルコトヲ得即チ一ハ

ヘハ債権者及ヒ債務者ニ對シ義務ニ附着シ純
然絶對的ノモノニシテ一ハ受方ニノミ義務ノ
附着シ詳カニ之ヲ言ヘハ債務者ニ對シテ之ニ
附着シ有限相對的ノモノナリ働方ノミノ不可
分ニ至テハ絶テ是レ有ルコトナシ何トナレハ
受方ノ不可分ナケレハ債権者ノ為メ通常ノ代
理ノ利益ノ外特ニ之カ為メ利益タルモノ非サ
レハナリ
然リ而シテ負擔シタル物ノ性質ニ原因スル不
可分ハ必ス其効力ノ純然絶對的タルモノナリ

蓋シ負擔シタル物ノ性質之ヲ分割スルコト能ハサルモノナルトキハ勘方ニテモ亦受方ニテモ之ヲ分割スルコトヲ能モ又シ合意即チ當事者ノ意思ニ從ヒ且其目的ト利益トニ因リ多少區域ヲ異ニスルモノナリ故ニ或ハ純然絶對的タルコトアリ或ハ相對的ニシテ債務者ニ限ルコトアリ

本法ハ不可分ノ原因ヲ標準トセス其効力ヲ標準トシ之ヲ類別シ第四百四十一條ニ純然絶對的タル不可分即チ債權者及ヒ債務者間ノ不可

的タル不可分即チ債權者及ヒ債務者間ノ不可

的タル不可分即チ債権者及ヒ債務者間ノ不可分ヲ規定シ其二個ノ原因ニ至テハ従カヒ之ヲ客観的ニ指示シタルノミ又第四百四十二條ニ於テハ相對的ノ不可分即チ債務者ニノミ効力ヲ及ホス約ノ受方ノ不可分ヲ規定シタリ其原因ハ亦同シク負擔シタル物ノ性質及ヒ合意若クハ遺言(義務ノ設定権原)ナリトス本條ハ先ツ各原因ヲ適用スルカ為ノ先ツ債務者ノ一人ノミニ不可分ノ負擔アリテ自餘ノ者之ヲ負擔セサルコトヲ仮定シタリ(第四百四十二條第一項

準トシ之ヲ類別シ第四百四十一條ニ純然絶對

及ニ第二項次テ第四百四十三條ニ於テ不可分
ノ受方ノ二ニテ而シテ總債務者ノ負擔タルヘ
ク其間ニ區別アラサルコトヲ明カニ要約シタ
ル場合ヲ仮定シタリ既ニ屢債權ノ項ノ擔保トシ
テ連帶ニ均キ擔保トシテ不可分ノコトヲ云ヘ
ハ即チ第四百四十三條ニ仮定スル所ノモノニ
シテ連帶ニ比スレハ或ル点ニ付キ債務者ノ負
擔少ナシト雖トモ亦或ル点ニ付テハ其負擔一
層重キモノナリ是レ連帶ハ併セテ不可分ヲ約
スルコト多キ所以ナリ而シテ擔保タル所ノ本

分ハ債權擔保編ニ讓リ玆ニ之ヲ規定セス

分ハ債権捨保編ニ譲リ茲ニ之ヲ規定セス

以下二三ノ適例ヲ掲ケ以テ第四百四十一條及ニ第四百四十二條ヲ敷衍説明セン

凡ソ物ハ二様ニ分割スルコトヲ得即チ形体上及ヒ法律上分割スルヲ得ヘキモノトス

ハ第四百四十一條ニ規定スルカ如シ然レトモ形体上分割スルヲ得ヘキモノハ有体物ノミニテ知能上分割スルヲ得ヘキモノハ有体物タルト無体物タルトヲ問ハサルヘシ

形体上分割スルヲ得ヘキモノハ有体物ノミニテ知能上分割スルヲ得ヘキモノハ有体物タルト無体物タルトヲ問ハサルヘシ

有体物中殆ト際涯ナク形体上分割スルモ亷モ

其性質ヲ変スルコトナク又其利益ヲ失フコトナキモノアリ金銭及ヒ尺度分量又ハ數目ヲ以テ計算スル所ノ消費品ノ如キ即チ是レナリ其他ノ物ハ形体上分割スルヲ得サルニ非サルモ亦其分割ノ為メ多少毀損スルヲ免カレス衣服家具美術品器械ノ如キ皆然リ

是ヲ以テ是等ノ物ニ関シテハ當事者ノ意思之ヲ分割セサルニアリヤ否ヤヲ考究スルコトヲ要ス又有体物ニシテ決シテ形体上分割ス可カラスト認ムヘキモノアリ活動物ノ如キ即チ是レナリ蓋シ是等ノ有体物ハ之ヲ分割スルニ於

レナリ蓋シ是等ノ有体物ハ之ヲ分割スルニ於テハ性質ヲ変スルノミナラス全ク毀滅スト云フヘキモノナリ故ニ是等ノ物ハ形体上不可分ナリト雖トモ知能上即チ法律上分割スルヲ得ヘキモノナリ何トナレハ其物件ノ使用権ハ数人間ニ分割スルコトヲ得数人各均不均ハ姑ク措キ同一ノ性質ノ権利ヲ有スルヲ得ヘケレハナリ是ヲ以テ此種ノ物件ノ共有者此物件ニ付キ債務者タルニ至リタルトキハ其義各共有者ハ債権者ニ相互ノ持分ヲ譲渡シ其義

キコトヲ約シタル場合ニ於テハ債務者ハ各債

務ヲ免カルヽヲ通則トス蓋シ知能上ノ分割ハ
決シテ物ノ性質ヲ変更スルモノニ非ス動物ノ
如キ物ニ之ヲ適用スルヲ得ヘキヤ明瞭ナリ
無体物ニ至テハ知能上分割スルコト能ハサルヤ明カ
リ決シテ形体上分割スルコト能ハサルヤ明カ
ナリ蓋シ無体物ヲ知能上分割スルハ一個ノ権
利ヲ分割シ之ヲ数人ニ譲渡シ又ハ数人ニテ之
ヲ共有シタルニ当リ其一人若クハ数人自己ノ
部分ヲ譲渡ス場合ニ於テ行ハルヽモノナリ例
ヘハ数人ノ要約者ニ一個ノ用益権ヲ委附スヽ

キコトヲ約シタル場合ニ於テハ債務者ハ各債
権者ニ對シ負擔スル所ノ用益權ノ部分ヲ之ニ
讓渡シ以テ其義務ヲ免カルコトヲ得而シテ或
ル原因ニ因リ債務者總債權者ニ對シ義務ヲ履
行スルコト能ハサルニ至ルコトアルモ債權者
中自己ノ部分ヲ受取リタル者ハ之ヲ失フコト
ナシ又數人ノ諾約者一個ノ用益權ヲ設定スル
コトヲ約シタル場合ニ於テモ各諾約者ハ其負
擔スル所ノ部分ニ付キ用益權ヲ設定スルヲ以
テ足レリトス而シテ其一人若クハ數人其義務

ノ履行ヲ為サシムルモ既ニ義務ノ履行ヲ為シタル諾約者ニ對シテ更ニ請求スル所アルヲ得ス又ハ債権ノ讓渡ヲ數人ノ要約者ニ對シ約束シタル場合ニ於テモ亦數人ノ諾約者之ヲ約束シタル場合ニ於テモ亦其趣意同一ニシテ未分ノ部分ニ付キ讓渡ノ約ヲ履行スルコトヲ得且其一部分ノ履行タリトモ猶ホ実益ヲ生スヘキヤ明カナリ

又用益権ヲ一部分ニ設定スルヲ得ルハ同一ノ理由ニ依リ賃借権及ヒ抵當権ヲ設定スルニ當テモ未受方及ヒ動方ニテ其一部分ニ設定ス

ルヲ得ヘシ蓋シ賃貸借ノ約シタル場合ニ於テ

ルヲ得ヘシ蓋シ債貸借ヲ約シタル場合ニ於テモ未タ意思ニ因ル不可分ナリトシテ可カラサルカ故ニ債貸借ハ知能上可分ナリト謂ハサル可カラス

財産收益ノ一部分ヲ為サシムルハ未タ必ス當事者ノ意思ニ適合スルモノニ非サルヘシト雖抵當ニ至テハ法律ニ當事者ノ意思ヲ推尋シ之ヲ以テ不可分ト認定スルカ故ニ一部分宛之ヲ設定スルコト能ハサルカ如シ然レトモ抵當ノ不可分ノ性質ヲ有スルハ其一旦設定シタル後

こアルノミ蓋シ一旦抵當ヲ設定シタルトキハ不動産ノ各部分ハ形体上観察スルモ全債務者ノ辨済ニ充當スルモノニシテ債権ノ各部分ハ不動産全体ヲ以テ擔保ト為スモノナリ（其理由ハ擔保編ニ詳カナリ）然レトモ數人ノ債務ノ擔保トシ又ハ數人ノ債権者ノ為メ單ニ抵當ヲ諾約シ之ヲ設定スヘキコトヲ約シタル場合ニ於テハ諾約者ノ一人自餘ノ者其義務ヲ履行セサルニ當リ獨リ進テ其諾約ヲ履行スルコトヲ得ヘク又諾約者一人ニシテ債

権者數人ナルトキ其債権者ノ一人ニ對シ義務

権者數人ナルトキ其債権者ノ一人ニ對シ義務ヲ履行シ自餘ノ者ニ對シ之ヲ履行セサルモ実際為シ難キ所ニ非サルナリ又不動産ノ共有者一人抵當ヲ設定シ自餘ノ共有者之ニ加ハラサルトキハ其未分ノ部分ノミニ抵當附着スヘシ是ニ依テ之ヲ観ルニ抵當ノ不可分ハ其性質ニ因ルモノニ非サルナリ

然レトモ物権及ヒ人権ニシテ其性質ニ因リ知能上尚ホ分割スルコト能ハサルモノアリ物権中性質上不可分ナルモノハ地役権ニシテ其不

可分ノ性質アルコトハ本編第二百六十八條ニ
之ヲ明言シ其理由ハ既ニ同條ノ下ニ於テ之ヲ
説明シタリ又人権中性質上不可分ナルモノハ
不作為ノ義務ノ過半及ヒ作為ノ義務ノ過半ナ
リトス（本編第十九條ヲ參觀スヘシ）例ヘハ數人
ノ利害関係人其豫定シタル或ル事件ニ関シテ
ハ原告若クハ被告ト為リ訴訟ヲ為サヽルヘキ
コトヲ約シタルトキハ各関係人全ク其義務ヲ
負擔スルコトヲ要シ其一人訴訟ヲ企ツルカ又
ハ之ヲ起ストキハ全ク其義務ニ違背シタルモ

ノトヲフヘシ又數人ノ債權者ニ對シ次シテ訴
訟ヲ起サヽルヘキコトヲ約シタル場合ニ於テ
諾約者其一人ヲ相手取リ訴訟ヲ起シタルトキ
ハ恰モ總債權者トシテ訴訟ヲ爲シタルト同シ
ク全ク其義務ニ違背シタルモノトヲフヘシ是
ヲ以テ一部分ノ不履行モ猶ホ全部不履行ノ結
果ヲ生シ就中債務者ハ總債權者ニ損害賠償ヲ
拂フノ責ニ任シ又過怠約款アリタルトキハ其
全部ノ効力ヲ生スヘシ
作爲ノ義務ハ不可分ナルコト不作爲ノ義務ニ

比スレハ較ヤ少ナシ例ヘハ障壁ヲ造リ又ハ道路ヲ修繕スルノ義務土地ヲ開拓スルノ義務種類ノ異同ヲ問ハス數個ノ物ヲ數多製作スルノ義務ノ如キハ其一部分ヲ履行スルヲ債権者ニ應分ノ利益ヲ與フルヤ明カナリ加之是等ノ場合ニ於テハ形体上義務分割スト云フヲ得ヘク債務者ノ一人其部分ヲ履行シ又ハ債権者ノ一人其部分ヲ受取リタルトキハ其部分ニ相應スル義務免除アリト云フヘク一分ノ履行ニ因リ一分ノ免除ナシトスルハ合意上即チ意思上ノ不可分ヲ時ニ約シタルコトヲ要ス

可分ヲ時ニ約シタルコトヲ要ス

然レトモ亦或ル作為ノ義務ハ其性質ニ因リ不可分ナルモノノ如キアリ其ニ其債務者負担シタル所ノモノヲ全ク履行セサルトキハ恰モ秋毫モ履行セサルモノト看做サルヘシ

或ル取引ヲ為シ又ハ仲裁ヲ為ス代理ヲ為シ抗告控訴又ハ上告ヲ為スヘキコトヲ約シタルトキ亦全ク其代理ヲ履行セサルニ於テハ恰モ其義務ヲ履行セサルモノト看做サルヘシ

理ニ着手セサリシト同シク毫モ其義務ヲ履行

分ノ免除ナシトスルハ合意上即チ意思上ノ不

是ヲ以テ委任者若クハ代理人數人アルトキハ
代理不可分ナルニ因リ各委任者ハ代理ノ全部
履行ヲ請求スルコトヲ得又各代理人ハ其全部
ヲ履行スルノ請求ヲ受クルコトヲ得
尚ホ性質上不可分ナル作為ノ義務ノ実例ヲ擧
クレハ書類ヲ提出スルノ義務管理計算ヲ為ス
ノ義務買主若クハ賃借人ノ妨害若クハ追奪ヲ
被ルニ當リ是ト共ニ又ハ之ニ代ハリ裁判所ニ
於テ參加ヲ為ス以テ之ヲ擔保スルノ義務ノ如
キ即チ然ルモノナリ蓋シ擔保ハ不履行ノ為メ

損害賠償ニ帰着シタルトキニ非サレハ分割ス
ルヲ得サルモノナリ（本編第三百九十五條第二
項ヲ参観スヘシ）以上陳フル所ハ第四百四十一
條第一項ニ規定シタル性質ニ因ル不可分ノ主
タル場合ナリ
意思ニ因ル不可分ハ（第二項）當事者ノ意思ニ原
因スルモノニシテ其意思タル合意中ニ明示ス
ルコトアリ又ハ黙示ニテ之ヲ顕表スルコトア
リ故ニ本法ハ裁判所ノ解釋ヲシテ事実ノ情状ヲ酌
ラシムルカ為メ裁判所ノ解釋ヲシテ事実ノ情状ヲ酌

料スルコトヲ得セシメタリト雖モ概ネ其意思ヲ顕表スルコトヲ得セシメタリトハ當事者ノ契約ヲ為スニ當リ希望シタル所ノモノハ當事者ノ契約ヲ為スニ當リ希望シタル目的タルヘシ

例ヘハ數人ニテ住宅ヲ構造シ又ハ旅館若クハ工場ヲ建築スルカ為メ一個ノ土地ヲ安約シ或ハ數人ノ諸約者一個ノ土地ヲ賣渡スヘキコトヲ約シタル如キ場合ニ於テハ負擔シタル物ノ性質固ヨリ分割スルヲ得ヘキカ故ニ其義務ノ一分ノ履行ヲ為スヲ得ヘキヤ明カナリト雖モ元ト安約者ノ希望シ諸約者ノ知リタリシ所ノ目的ヲ遂スルニハ土地全部ヲ讓渡スニ非サ

ノ目的ヲ遂スルニハ土地全部ヲ譲渡スニ非サレハ能ハサルカ故ニ各債権者ハ土地ノ全部ヲ供
請求スルノ権利ヲ有シ各債務者ハ其全部ヲ供
ス義務ヲ有スルモノナリ
是ヲ以テ前例ニ示シタル所ノ二三ノ義務ハ性
質上可分ナリト雖トモ市結約ノ意思ニ因リ不
可分ト為ルコトヲ例ヘハ美術品ヲ供
給シ學藝ノ器械ヲ賣渡シ寶物ヲ給附スルノ義
務ノ如キハ所有権ノ賣渡シ能上ノ一部分ヲ譲渡シ
テ一分ノ履行ヲ為スヲ得ヘキモノナリト雖

トモ概ネ結約者ノ意思ニ因リ不可分タルヘシ
義務ニ意思上ノ不可分ノ性質アリヤ否ヤヲ査
定スルカ為メ酌料スヘキ所ハ概ネ要約者ノ意
思ナリトス何トナレハ契約ヲ為スニ因リ希望
スル所ノ目的ヲ有シ特ニ收受センコトヲ期シ
タル利益ヲ有スル者ハ要約者ナレハナリ然レ
トモ亦諾約者ニ至テモ要約者ノ目的ヲ知リ之
ニ應スルニ當リ其全部ニ付キ義務ヲ負擔シ從
テ相當ノ準備ヲ為スヘキコトヲ豫メ兼知シタ
ルヲ要スルカ故ニ諾約者ノ意思モ亦之ヲ斟酌
セサル可カラス尚ホ第四百四十九條ニ於テ共

セサル可カラス尚ホ第四百四十九條ニ於テ共
同債務者ハ義務不可分ノ性質アル場合ニ於テ
遲滯ノ債務者ヲ訴訟ニ參加セシムルヲ得ルコ
トヲ認許シタリ
又合意ノ解除銷除若ク廢罷ヲ目的トスル訴權
ノ如キモ亦意思上ノ不可分タルモノニシテ債
務者並ニ債權者共ニ申立ツルコトヲ得ルモノ
ナリ
蓋シ右訴權ノ性質ノ:ヲ考フルトキハ契約ノ
一分ヲ取消シ他ノ一分ヲ維持スルモ敢テ難キ
一分ヲ

ニ非ス例ヘハ賣主其賣買代價ノ半額ヲ受取リ
タルトキハ賣渡物ノ未分ノ半分ニ付キ所有權
ヲ回復スルヲ得サルニ非サルヘシ然レトモ此
結果タル多クハ其利益ニ及シ且其當初ノ意思
ニ背馳スルモノタルヘシ又買主モ縱令過失ア
ルニモセヨ賣主ト共ニ共有者ト為リ物ノ半分
ヲ所有スルノ責アル可カラス故ニ此場合ニ於
テハ殆ト法律上ノ不可分アリトシフヲ得ヘキ
カ如シト雖トモ此事ニ付キ法律ニ明文ヲ設ケ
サルトキハ當事者ノ意思ヲ推尋シタルニ因リ

不可分アリト云フヘキナリ加之此場合ニ於テ
取消ノ不可分ナルハ一ニ物権ノ性質上分割ス
ルヲ得ス之ヲ分割スルトキハ各當事者ヲシテ
全部ニ付キ得ヘキ利益ニ應スル利益ヲ得セシ
ムルコト能ハサル場合例ヘハ家屋若クハ土地
ヲ目的トシタル場合ニノミ限ルコトヲ要ス蓋
シ家屋若クハ土地ノ如キ之ヲ分割スルトキハ
其一部分ハ充分ノ利益ヲ生スルコト能ハス全
部ノ利益ニ比シ一分ノ利益ヲ生スルコトヲ得
サルモノナリ然レトモ消費品若クハ商品ノ如

キ性質上容易ニ分割スルヲ得ヘク且其長短量目等ニ應シ代價ヲ定ムルコトヲ得ヘキ物ノ賣買ヲ為シタル場合等ニ於テ買主代價ノ半分若クハ四分三ヲ辨濟セサルトキハ賣主ハ賣渡物品ノ半分若クハ四分三ニ付キ賣買ヲ解除セシムルコトヲ得ヘク買主ハ此一分ノ解除ヲ拒ムノ權利ヲ有ス可カラス

但水法ニハ特別ノ場合ニ於テ解除訴權ノ法律上不可分ノ性質ヲ附シタリ（本編第四百八十六條第二項ヲ參觀スヘシ）

是ニ依テ之ヲ觀ルニ當事者ノ意思ハ常ニ其希

是ニ依テ之ヲ觀ルニ當事者ノ意思ハ啻ニ其希望シタリシ目的ニ因ルノミナラス亦合意ノ目的タル物件ノ性質及ヒ形体上ノ分割後ニ存スヘキ所ノ利益ニ因リ之ヲ推知スルヲ得ヘキモノナリ

論者往々謂ヘルアリ双務合意ニ於テハ當事者ノ一方ノ約シタル義務其性質ニ因リ又當事者ノ意思ニ因リ不可分ナルトキハ他ノ一方ノ義務モ亦意思ニ因リ不可分ナリト看做スコトヲ要スト然レトモ是レ不可分ヲ推定スルノ當ヲ

過キタルモノト謂ハサル可カラス例ヘハ二人ノ債権者二人ノ債務者ヲシテ性質上不可分ナル所ノ地役ヲ約セシメ又ハ當事者ノ意思ニ因リ不可分ナル所ノ物例ヘハ特定ノ建築ノ為メ土地ヲ買取リ或ハ乘馬繪画等ヲ買取ルヘキコトヲ約シタルトキハ其負擔スル所ノ代價ハ性質上可分ニシテ當事者ハ其代價ノ辨済不可分タルヘキコトヲ約シタリト推定スルニ足ルヘキ理由非サルナリ其代價ノ辨済ヲシテ不可分タラシムルニハ債権者ニ於テ特ニ不可分ナル

用方ニ其代償ヲ償ヒ初メテ債務者其用法ヲ知リタルコトヲ要ス例ヘハ債権者一個ノ家若クハ船舶ヲ買取ランカ為メ自己ノ所有物ヲ賣リタル如キ場合ニ於テハ其代償亦當事者ノ意思ニ因リ不可分タルモノトシフヲ得ヘシ然レトモ其他ノ場合ニ於テハ性質可分ナル物ヲ以テ對手ノ義務不可分ナルカ為メ直チニ不可分ナリト推定ス可カラス

第四百四十一條ハ絶對的ノ不可分ノ二個ノ場合ヲ言ヘハ働方且受方ナル

指示シタルモノニテ第四百四十二條ニ於テハ單ニ受方ノミナルモノニテ第四百四十二條ニ於テハ單ニ受方ノミナルヲ不可分ノ場合ヲ規定スルモノニシテ其場合ニ個アリ第一ノ場合特定物ノ所有權移轉ニ關スル不可分即チ債務者ノ間ニ存スル其引渡ニ關スル場合ハ即チ右不可分ノ第一ノ適例ナリ此場合ニ於テハ或ハ所有權ハ既ニ賣買若クハ贈與等ニ因リ單ニ兼諾ノミニ依リ行ハレタルコトアルヘク或ハ既ニ設定シタル用益權若クハ賃貸借權ニ關スルコトアルヘク

或ハ審訊使用貸借又ハ賃貸借ノ目的物返還ヲ

或ハ賃貸使用貸借又ハ賃貸借ノ目的物返還ヲ
為スカ為メノ特定物ノ引渡ヲ為スヘキコトアル
ヘシ總テ是等ノ場合ニ於テ其引渡ノ義務ヲ負
擔スル債務者數人アルトキハ形体上其物件ヲ
有スル者ニ對シ其全部ノ引渡ヲ要求スルコト
ヲ得ヘシ蓋シ物件ヲ右有セサル自餘ノ債務者
ニ對シ訴追ヲ為スモ到底引渡ヲ為スコト能ハ
ス結局不履行ノ為メノ損害賠償ヲ得ルハ債權者ヲシテ
十分ノ利益ヲ得セシムルニ足ラサルコトアルヘ

用益權若クハ賃貸借權ニ關スルコトアルヘク

キ十リ抑特定物引渡義務ノ不可分ナルハ引渡ノ性質自体ニ原因スルモノニシテ引渡ナルモノ、引渡スヘキ物ノ所有権譲渡ト異ナリ形体上ノ行為ニシテ之ヲ分割シテ行ハント欲セハ物自体ヲ分割セサル可カラス斯ノ如キハ全ク其物ヲシテ利益ヲ失ハシムルコト最モ多カルヘシ然リト雖トモ亦不可分ハ引渡スヘキ特定物性質自体ニ原因スルモノトシテ可カラス若シ果シテ然リトセハ其不可分ハ債権方且受方ノモノト看做サヽルヲ得ス然ルニ法文ニ明カニ其不可分ナルコトヲ仮定シ其不

其物性質ニ因リテ可分ナルコトヲ仮定シ其ノ
可分ハ唯當事者ノ意思ニ因ルモノナリトセリ
蓋シ此場合ニ於テハ義務不可分ノ殊ニ債務者
ノ意思ニ因スルトキフコトヲ得ヘキモノナ
リ何トナレハ債務者ハ分割若クハ其他ノ方法
ニ依リ債務者ノ一人ヲシテ負擔物件ヲ右有セ
シムルコトヲ兼諾シタルモノニシテ畢竟之ヲ
シテ獨リ履行ノ任ニ當ラシメントノ意思アリ
タルモノナリ而シテ債權者ハ之カ為メ數個ノ
訴權ヲ起スニ及ハサルノ利益アリ若シ之ヲシ

テ負擔シタル物件ノ占有者タラサル者ニ對シ數個ノ訴權ヲ起サシムルトキハ結局損害賠償ヲ得ルニ止マリ債權者ノ爲メ充分ノ利益アラサルヘシ然レトモ勵方ノミノ不可分ナル物ヲ
ス其毀損ヲ來スヘキカ故ニ債務者債權者ノ一

ス其毀損ヲ来スヘキカ故ニ債務者債権者ノ一
人ヨリ訴追ヲ被リタルトキハ自餘ノ債権者ヲ
シテ訴訟ニ參加セシムヘキコトヲ請求シ總債
権者ニ對シ同時ニ義務ヲ免カレシテ其責任ヲ
免カルヽコトヲ得
第二ノ場合第二ノ場合ニ於テハ數人ノ債務者
ノ約シタル義務ノ設定権限ヲ以テ特ニ債務者
ノ一人ヲシテ辨濟ノ任ニ當ラシメタル場合ニ
シテ其義務ノ不可分ナルハ明カニ當事者ノ意
思ニ原因スルナリ勿論此場合ニ於テモ債権者

ハ自己ノ享受シタル所ノ権利ヲ行ハス各債務者ニ對シ各別ニ訴権ヲ行フコトヲ得ヘシ此場合ニ於テモ亦第一ノ場合ニ於ケルト同シク不可分ハ受方タルノミニ故ニ數名ノ債権者ヲ特ニ辨濟ノ任ニ當リタルトキハ各債権者ハ特ニ辨濟ノ任ニ當リタル債務者ニ對シ自己ノ持分ニ付キ訴権ヲ行フヲ得ルニ過キス而シテ此場合ニ於テハ引渡ノ義務ニ關スルトキト異ナリ形体上ノ分割ヲ為スモ毫モ実際紛議ヲ生スルコト非サルカ故ニ債務者ヲシテ訴訟ヲ起サヽルヲ知能上ノ分割ヲ為スモ毫モ実際紛議ヲ生スルコト非サルカ故ニ債務者ヲシテ訴訟ヲ起サヽル自餘ノ債権者ヲ訴訟ニ參加セシムヘキコ

サル自餘ノ債権者ヲ訴訟ニ参加セシムヘキコ
トヲ要求スルヲ得セシメス故ニ債務者ハ各債
権者ノ請求アルニ從ヒ順次之ニ對シ其義務ヲ
履行スヘシ

第四百四十三條ハ當事者ノ意思ニ原因スル所
ノ働方又ハ受方ノ不可分ノ場合ヲ規定スルモ
ノナリ只前ノ意思上ノ不可分ト異ナル所ハ之
ヲ設定スルカ為メ明白ナル要約ヲ要スルニ在
リ（債権擔保編第八十六條第二項ヲ参観スヘシ）
然レトモ茲ニ特ニ本條ヲ設ケタルハ敢テ此差

異アルカ故ニ非スシテ明約ノアリタルヲ不可分ハ對人擔保タルモノニシテ債權擔保編ニ至リ債務者間ノ連帶ト係セテ詳細ニ規定スヘキカ故ナリ

本條ハ不可分ノ附隨ノ効力ヲ定ムルモノナリ

第四百四十四條

其効力タル附隨ノモノトシテハ雖トモ亦頗ル重要ナルモノナリ而シテ法律ニ慟方ト及ヒ受方ノ不可分ト單ニ受方ノミナルトキハ此効力ハ二者ニ共通ニ区別ヲ設ケサルヲ不可分ト及ヒ受ノ間

ノモノト看做スコトヲ得ヘキモノナリ

然レトモ法律ヲ以テ各債権者ノ全部訴追ノ権アルコトヲ認ムルモ是レ其債務者トノ関係上定メタルノミニ因ヨリ數個ノ債権者ノ為メニ債権ヲ発生セシムル所ノ原因ハ其間ニ特別ノ関係アルニ因リ成立スルモノニシテ其関係ノ為メ後ニ至リ其間特ニ計算ヲ為スヲ要スルモノナリ蓋シ數人ノ債権者苟ニ一個ノ債権ヲ得ルハ或ハ其苟有者タルカ又ハ社員タルカ故ナルヲ以テ其債権ノ利益ヲ分得スヘキ権利ハ其債

権取得以前ノ相互ノ関係又ハ合意ヲ為スニ當リ相互ノ代理ヲ為シタルニ因リ生シタル相互ノ関係ニ従ヒ劃定スヘキモノナリ又若同債務者ノ同時ニ同一ノ債務ヲ負擔スルニ至ルモ是レ其債務ヲ負擔スルニ前ノ関係若クハ不可分義務ノ関係ト別異ナル関係ニ起因スルモノナリ

然リ而シテ債権者又ハ債務者従来相互ノ関係ニ基キタル訴権ヲ有セサル場合ニ於テハ債権者若クハ債務者相互間ニ義務ノ利益若クハ負擔ヲ平等若クハ不平等ニ分割スルヲ目的トス

ルヲ目的トスル求償権ハ擔保訴権ヲ以テ之ヲ

ルヲ目的トスル求償権ハ擔保許権ヲ以テ之ヲ行フヘシ（本編第三百九十條ヲ參觀スヘシ）又許権ヲ行フヲ當リテハ債権者ハ獨リ債権額ヲ受取リタル者ハ自餘ノ債務者ニ對シ全部ヲ受取リタルヘシ又債務者先ツ獨リ債務ノ全部ヲ辨濟シタルトキハ各債務者ニ對シ求償ヲ爲シ得ヘキ權利ヲ有スルヲ以テ各債務者ハ自餘ノ債務者ニ對シ其獨リ辨濟シタル全部ヲ分擔スルノ義務

ノニ非ス之ヲシテ其獨斷ニ任セ権利ヲ處分セシムルハ縱令前條ニ規定シタル擔保ノ求償権後日ニ至リ受クヘキモノトスルモ尚ホ法律ノ聽許ス可カラサル所ナリ其理由ニアリ第一求償権ハ之ヲ受クル者ノ無資力ノ結果ニ因リ無効ニ属スルコトナキヲ期ス可カラス第二縱令其求償権ノ実効ヲ生スヘキトキト雖トモ結局自餘ノ債権者ヲシテ金銭ヲ以テ損害賠償ヲ得セシムルニ過キス然ルニ損害賠償ハ其元来有

シタリシ権利ノ全部ノ保証ト為ルコト能ハサ

然レトモ義務消滅ノ方法中債権者ノ一人之ヲ行フコトヲ禁スル可カラサルモノアリ各債権者ハ即チ義務ノ正當ニ要求スルヲ得ヘキ所ノ一人全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ル旨ヲ本條特ニ規定シタリ且債権者ハ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テハ前記二個ノ辨濟ヲ受クルモ亦大ニ減少スルモノナリ

レタリ之権利ノ全部ノ保証ト為ルコト能ハサルモノナリ

其効果或ハ権利ヲ移轉シ總債権者ヲシテ之ヲ共有セシメ之ヲ共同事業ニ関シ一個ノ作為ヲ成就セシメ總債権者ヲシテ之ヲ得セシムヘシ故ニ辨済ヲ受ケタル債権者ノ無資力ノ危険ヲ恐ルヘキハ僅カニ金銭若クハ消費品ノ辨済ノ場合ニノミ限ルモノナリ加之此場合ニ於ケルモ尚ホ自餘ノ債権者ハ總債権者列席ノ上之ニ對シ辨済ヲ為サシムルノ處分ヲ行フコトヲ得」然リ而シテ何レノ場合ニ於ケルモ債権者ノ一人獨リ辨済ヲ領受スルヲ得ルトキハ其之ヲ要

約シタル如ク一ニ合意ノ趣意ニ從フテ受クル

約シタル如ク一ニ合意ノ趣意ニ從フテ受クルコトヲ要ス故ニ債権者一人ニテハ一個ノ物ニ代ヘ他ノ物ヲ受取ルコトヲ得ス蓋シ一物ヲ以テ他物ニ代フルハ所謂代物辨済ナルモノニシテ（本編第四百六十一條ヲ參観スヘシ）縦令代物ノ價額多キトキト雖トモ尚ホ債権者一人ノ獨断ニテ兼諾スルコト能ハサル所ナリ況ンヤ債務ノ無償ノ免除ヲ為シ又ハ義務ノ原素ノ一個ヲ変更スヘキ所ノ更改ノ如キニ至テハ決シテ一人ノ債権者能ク為スコト能ハサル所ナリ然

レトモ亦債権者ノ一人獨断ニテ是等ノ所為ヲ
行フコト無シトセス故ニ本條此場合ヲ規定シ
其行為ヲシテ自餘ノ債権者ノ権利ヲ障害セサル
ル所ノ効力ヲ有セシメタリ即チ自餘ノ債権者
ハ唯一ノ債務者ニ對シ又ハ共同債務者ノ一人
中其訴追セントスル者ニ對シ全然其権利ヲ行
フコト恰モ債務ノ免除更改又ハ相殺ナカリシ
トキノ如クスルヲ得ヘキモノトス但其訴追シ
タル債務者ニ對シ免除若クハ更改ヲ為シタル
債権者ノ受クヘキ利益ノ部分ニ應シ金銭ニテ

償還スルコトヲ要ス斯ノ如クスルトキハ免除ノ合意其効力ヲ全フシ而シテ自餘ノ債権者ニ損害ヲ及ホサヽルコトヲ得

不可分ノコトタル更改義務免除及ヒ相殺ノ如キニ関シ細密ナル區別ヲ設ケ之ヲ規定スルヲ要スルカ故ニ各事項ニ付キ債権者間ノ不可分ニ関スル特別ノ規定ヲ設クルヲ以テ本條ハ一々各事項ニ之ヲ讓リタリ

本條ニハ不可分義務債権者ノ一人ノ過失ニ因リ履行スルコト能ハサルモノト為リタル場合

ヲ規定セスト雖トモ此点ニ付テハ一般ノ原則ヲ以テ之ヲ断定スルコトヲ得ヘシ即チ債権者ノ一人ノ過失ニ因リ義務履行ノ不能ト為リタルハ債務者ノ為ソ意外ノ事若クハ不可抗力ニ出テタル履行不能ナルカ故ニ總債務者ハ總債権者ニ對シ其義務ヲ免除スヘシ然レトモ過失アル債権者ハ自餘ノ各債権者ニ對シ其舊債権ノ利益ニ付キ得ヘキ部分損失シタルノ賠償ヲ負擔スヘシ而シテ其賠償ハ分割スルヲ得ヘキモノトス

第四百四十六條

前條規定スル所ニ反シ債權者ハ相互ニ損害ヲ及ホスコトヲ能ハサルモ相互ニ利益ヲ加ヘ共有債權ノ不可分ノ場合ニ於テハ債權者間ノ連帶ノ場合ニ有益ナル處分ヲ爲スコトヲ得蓋シ雖トモ亦事務管理ニ因リ相互ノ代理ナルモノニ非スト雖トモ亦事務管理ニ因リ相互ノ代理ナルモノニ非スト異ナリ債權者ノ一人ハ自餘ノ者亦從テ其利益ヲ享受スヘシ

務ノ性質其一分ヲ保存シ他ノ一分ヲ喪失スル
コト能ハサルモノナルカ故ナリ而シテ債権者
ノ一人ノ自餘債権ノ全部ヲ保存シ自餘ノ者之
ヲ失フハ條理ノ許サヽル所ナレハナリ
本條ハ特ニ債務者ノ付遅滞ヲ記載シ以テ債権
者ノ一人ノ為シタル保存處分ニシテ自餘ノ者
ニ利益ヲ及ホスヘキモノヽ一ト為シタリ蓋シ
付遅滞ハ數多ノ重要ナル結果ヲ生スルモノナ
リ詳カニ之ヲ言ヘハ付遅滞ハ債務者ヲシテ其
義務ヲ履行セシナラハ生スルコト非サリシ所

ノ滅失ノ責ニ任セシメ縱令其滅失意外ノ事ニ
出ツルモ尚ホ其責ニ任セシメ（本編第三百三十
五條及ヒ第三百三十六條ヲ參觀スヘシ）之ヲシ
テ遲延ノ損害賠償ヲ負擔セシメ（本編第三百八
十四條ヲ參觀スヘシ）又時効ヲ中斷スルモノナ
リ

第二項ハ特ニ時効ノ停止ニ関シ中斷ニ関スル
ト同シク付遲滯ノ効力ヲ規定シタリ蓋シ債務
ノ一分ノ消滅ヲ來スヘキ所ノ有限ノ停止ヲ認
ムルハ理ノ許サヽル所ニシテ又債權者ノ一人

ヲ保護スル停止ヲシテ全ク其効力ヲ生セシメサルモ亦理ノ許サヽル所ナレハナリ

第四百四十七條及ヒ第四百四十七條及ヒ第四百四十八條ノ裏面即チ不可分義務ニ於ケル債務者相互ノ關係ヲ規定スルモノナリ蓋シ不可分義務ニ於テハ各一人トシテ自餘ノ共同債務者ニ利益ヲ及ホスヲ得ルコト恰モ共同債權者ノ相互ニ利益ヲ及ホスヲ得ヘキカ如シト雖トモ決シテ相互ニ損害ヲ加フルノ所爲ヲ行

フヲ得サルモノナリ繼令債務者ノ一人ノ行爲

ヲ得サルモノトリ継令債務者ノ一人ノ行為之ニ付キ害アルモ其損害ハ決シテ他ノ債務者ニ損害ヲ及ホスヘキモノニ非ス然リ而シテ付遅滞ニ関シテハ本條ニ規定スル所前條ニ規定スル所ト少シク抵觸スルノ觀アルカ如シ蓋シ前條ハ債権者ハ其一人ノ為メタル行為ノ利益ヲ受クルコトヲ得ルモノナルニ本條ニ依レハ債務者ノ一人ニ對シ行フタル處分ノ効力ヲ自餘ノ債務者ニ對抗スルヲ得可カラストカ為スカ故ニ此前後ノ規定ハ相矛

値スルニ似タリトヲフヲ得ヘシ然レトモ前條
ノ場合ニ於テハ債権者一人ニシテ債務者數人
アルコトニ着目ヌレハ決シテ前後相矛盾セサ
ルコトヲ會得スルコトヲ得ヘシ蓋シ唯一ノ債
務者共同債権者ノ一人ヨリ告知ヲ受ケタルト
キハ自餘ノ者ヨリ同時ニ告知ヲ受ケタリト看
做サルヽコトヲ得ヘキモノナリ何トナレハ債
務者ハ債権者ノ一人ニ辨済スルモ自餘ノ債権
者ニ辨済スルモ敢テ其利害ニ関係ヲ及ホスモ
ノニ非サレハナリ之ニ及シ共同債務者中遅滞

ノニ非サレハナリ之ニ及ヒ共同債務者中遅滞
ニ付セラレサル者ハ自餘ノ債務者ノ付遅滞ヲ
知ラサルコトアルヘキカ故ニ決シテ之カ為ヲ
ニ告知ヲ受ケタリト認定セラルヘキモノニ非
サルナリ
然リト雖トモ付遅滞ノ主タル効力タル時効ノ
中断ニ関シテハ前項ニ述フル所ト異ナリ共同
債務者ノ一人ニ対シ中断アルトキハ自餘ノ者
之ヲ知ラサルトキト雖トモ尚ホ之ニ対シ同時
ニ其効力ヲ及ホサヽルヲ得ス然ラスンハ債務
者中一ハ辨済ノ推定ヲ申立ツルコトヲ得自餘

ノ者ハ依然債務者タルニ至ルヘク斯ノ如キハ不可分義務ノ性質及ヒ辨濟ノ効力ニ背馳シ是ト相容レサル所ナリ然リト雖トモ債務者ヨリ時効ヲ人ヲ訴追シタル債權者ハ其債務者ヨリ時効ヲ對抗セラルヽコトアル可カラス是ヲ以テ此場合ニ於ケルモ前條ノ場合ニ於ケルト同一ノ理由ニ依リ論決ヲ同シウスヘキモノナリ

例ヘハ債務者ノ一人ニ對シ時効ノ停止ノ利益ヲ有スルトキノ如キ即チ然リ自餘ノ債務者ニ對シ又債權者債務者ノ一人其配偶者タルトキハ之ニ其利益ヲ有スルモ亦同一ノ理由ニ依ルモノ

し其利益ヲ有スルモ亦同一ノ理由ニ依ルモノ
ナリ是ヲ以テ債権者結局其訴追スル所ノ債務者
者ニ對シ時効ニ因リ義務ヲ免カレタル債務者
ノ債務ノ部分ニ付キ計算ヲ為スノ義務アルハ
第四百四十五條ノ末段ノ規定ト同一ノ趣意ニ
基キタルモノニシテ只関係人ノ位置ヲ異ニスル
ノミ

第四百四十八條ハ連帯義務ニ於テルカ如ク連合責任ヲ発生セシムル所ノ代理ナキトキハ過失ノ責任ハ一身ニ止マルヘキノ原則ヲ債務者

ニ對シ適用シテ曰ハク債務者ノ一人ノ過失ニ因リテ不可分ノ義務ヲ履行スルコトヲ得サルトキハ損害賠償又ハ過怠約款ハ過失者ノミ之ヲ負擔ス可分義務ノ全部ノ履行ヲ保護スル為メ過怠約款ヲ設ケタルトキト雖トモ亦同シト是ヲ以テ債務者ノ一人自己ノ過失ニ因リ債務ノ通常履行ノ妨害ヲ為シタルトキハ獨リ損害賠償若クハ過怠約款ノ責ニ任スヘシ而シテ本條ニ於テハ履行ノ遲延加之付遲滞以後ノ意外ノ滅失ヲ以テ直接ノ過失ト同一視セサルト雖

トセハ是レ既ニ前條ニ於テ特ニ遲滯ニ付セラレ
サル債務者自餘ノ債務ヨリ付遲滯ノ爲メニ損
害ヲ被ル可カラサルコトヲ定メタルニ因リ自
ラ明瞭ナル所ナリ

第四百四十九條

數個ノ債權者ノ一人ヨリ訴ヲ受ケタル債務者總債權者ヲシテ訴訟ニ參加セシメンコトヲ請求シ之ニ對シテ均ク義務ヲ免カルヽヲ得ルコトヲ定メタリ本條ニ於テハ數個ノ債權者ノ一人ヨリ訴追ヲ受

ノ滅失ヲシテ直接ノ過失ト同一視セサルト雖

ケタルニ當リ獨リ訴訟人タラスシテ自餘ノ債
務者ニ對シ同時ニ判決アランコトヲ請求スル
ヲ得ル旨ヲ定ムルモノナリ是ヲ以テ債權者ハ
其訴追スル所ノ債務者ニ對スルト同シク自餘
ノ債務者ニ對シ判決ノ執行ヲ爲スコトヲ得ヘ
ク又其債務者ハ自餘ノ債務者ニ對シ擔保ノ言
渡ヲ爲サヽルノ自餘ノ者ニ代ハリ辨濟ヲ爲シタ
ルトキ是ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ得ヘシ
是ヲ以テ第四百四十二條及ヒ本條ノ規定ハ大
ニ相類似スト雖トモ本其間忽諸ニ附ス可カラ

サル差異ノ存スルモノアリ蓋シ第四百四十二

サル差異ノ存スルモノアリ蓋シ第四百四十二
條ニ於テハ訴追ヲ為シタル債権者ノ請求ニ
因リ其共同債権者ノ訴訟ニ参加セシムル
參加セシムルノ手續ヲ為サヽル可カラサルモ
訴追ヲ受ケタル債務者其共同債務者ヲ訴訟ニ
本條ニ於テハ訴訟ニ參加ノ手續ヲ為スコトヲ要ス蓋シ本
條ニ於テ參加ノ手續ヲ為スノ任ヲ債務者ニ負
ハシメ第四百四十二條ニ於テ其手續ヲ為スノ
任ヲ債権者ニ負ハシメサルヲ以テ債務者ハ
總債権者ヲ知ラサルコトアルモ總債務者ヲ知

ラサル可カラサルカ故ナリ

又本條ニ於テ債務者ニ許与シタル権能ハ受方及ヒ働方ノ不可分ノ場合ニ限リ存スルモノナリ是レ本条ニ第四百四十一条ヲ引用シタル所以ナリ第四百四十二条ニ依テ規定シタル単ニ受方ノミナル不可分ノ場合ニ於テハ許遅ヲ受ケタル債務者全部ノ履行ヲ為スヘキノ責アリ而シテ其責任甚タ重キモノナルカ故ニ許訟手続ヲ煩延シ之ヲ変更スルコトヲ得サルモノナリ